

Sunshine Letter



こんにちは！
「サンシャインくん」です。
英語教育をがんばる先生を
応援しています。

ICTの活用で 言語活動を豊かにする

児童の「伝えたい」を引き出す3つの活用法

sfk_Foto/Shutterstock.com

特集

ICTの活用で言語活動を豊かにする … 2

実践

北海道札幌市立宮の森小学校教諭 平山 伸正 …… 2

ここがポイント

北海道教育大学教授 萬谷 隆一 …… 5

連載

先生のお道具箱 ～What's in your toolbox?～

岩手県山田町立豊間根小学校教諭 神田 麻未 …… 6

リニューアル特別企画

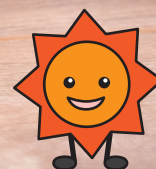
ICT活用で変わる小学校外国語教育(1)

文部科学省 初等中等教育局視学官 直山 木綿子 … 8

特集💡

ICTの活用で 言語活動を豊かにする 児童の「伝えたい」を引き出す3つの活用法

今注目の「ICTの効果的な活用」について、実践経験の豊富な先生の授業を見てみよう！



平山 伸正

北海道札幌市立
宮の森小学校教諭



GIGAスクール構想のもと、児童一人一台端末環境が整備され、ICTの積極的な活用が推進されています。本稿では、言語活動をより豊かにする小学校外国語科の実践を紹介します。

単元について

●単元名(配当時数)

ALTの家族に「日本のすてき」を紹介しよう。(10時間)

●目標

日本の文化や行事、場所や食べ物などについて、具体的な情報を聞き取ったり、ALTの家族に日本のよさを知ってもらうために、自分の実感を含めて紹介したりすることができる。また、音声で十分に慣れ親しんだ語句や表現を書き写すことができる。

●評価する領域と観点

「聞くこと」「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」

「話すこと[発表]」「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」

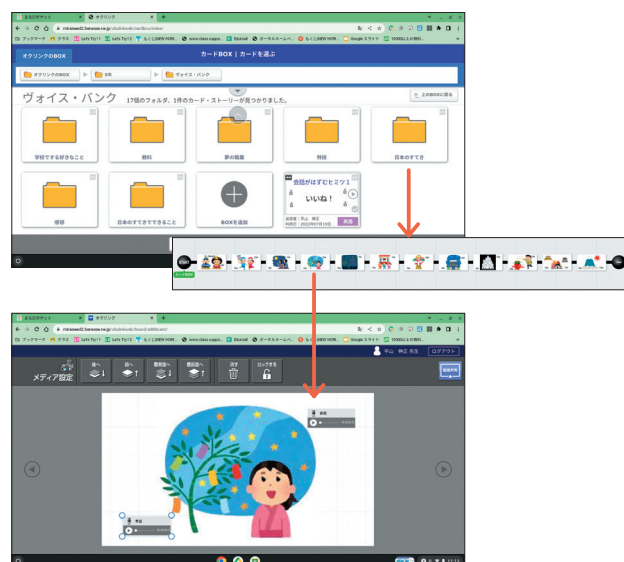
1 「話すこと」に自信をもたせるためのICT活用法

デジタル教科書のように便利なツールが使えるようになっても、指導者が本気で語り聞かせる英語ほど児童を安心させ、意欲を高めるものではありません。指導者が英語に苦手意識があっても、「伝えたい」思いは児童に伝わり、「先生のように話してみたい」とやる気を起こすきっかけとなるはず。そのような考えのもと、指導者が英語で児童にたくさん話しかけることを大切にして、高めた意欲を「話すこと」の言語活動につなげています。

まだ英語の読み書きができない児童にとって、「話すこと」の言語活動を行う際に頼りになる道具は「音声」と「イラスト」です。児童は、意味のある文脈の中でイラストなどを伴って語句や表現を繰り返し聞くことで、

音声と意味とを結び付けながら内容を捉えたり、語句や表現の特徴などに気づいたりしていきます。ところが、話した音声は消えてその場からなくなってしまいます。週に2時間の授業では、前時に聞いた一つの単語の音声さえも思い出すのは難しいのが実情ではないでしょうか。そこで有効に活用したいのが児童のタブレット端末です。

本単元では、第3時の「日本のすてきを言う活動」で、児童は指導者から“We have Star Festival.”のように日本の文化や食べ物などを紹介する語句や表現を何度も聞き、自分でも言います。第4時に、今度は「日本のすてきをペアで伝え合う活動」を行います。児童が「七夕のことを伝えたいが、先生はどのように言っていたかな」と困ることが予想されます。そこで、学習支援ソフトのカード機能を使用し、言語材料である日本の文化や行事などを表すイラストに音声を付けたファイルを作り、第3時の活動時に配りました。このファイルや学習者用デジタル教科書を使い、**自分が確かめたい音声をいつでも選んで聞くことができるようにしたことで**、第4時のペア活動では、**児童全員が自信をもって伝え合うことができました**。私はこのように音声ファイルをまとめたものを「ヴォイス・バンク」と呼び、全単元で活用しています。



▲ ヴォイス・バンク

言語材料のイラストに音声を付けた絵カードのファイルを、カテゴリ別に収めたもの。イラスト上の「単語」「表現」ボタンをクリックすると音声を確認できる。

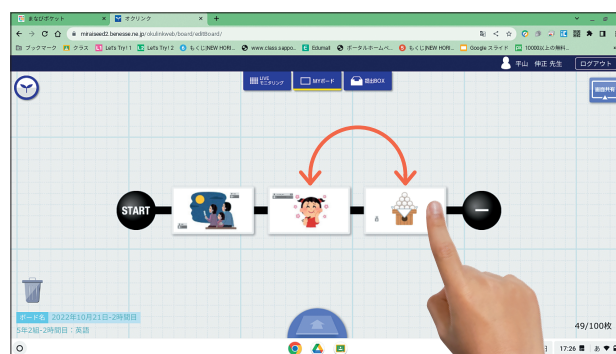
「個別最適な学び」を実現する
ICTの活用だね！



2 | 伝えようとする内容を整理するためのICT活用法

『小学校学習指導要領』の「話すこと〔発表〕」の目標には「伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする」という言葉があります。一読では難しそうな内容ですが、ICTを活用することで、適切な指導を少ない負担で行うことができます。第8時「ALTに『日本のすてき』を紹介するためにペアで伝え合う活動」を例に、その方法を紹介します。

ある児童が、「お月見」を紹介しようと“We have a moon-watching party. It's delicious. We can eat *dango*.”と何度も言っていました。そこで「もっと相手にわかりやすくするためには、どうしたらいいかな」と問いかけました。しかし、前述のように音声は残らないので、児童が話す順番の工夫の必要性に気づくことは簡単ではありません。ここで活躍するのが、録音機能やプレゼンテーションアプリのスライドショー機能です。録音機能を使えば、自分の話を記録し、聞いて振り返ることができます。スライドショー機能は、スワイプでカードの順番を入れ替えられるので、一度話す順番にカードを並べておけば、活動中に即時に内容整理を行うことができます。このような手立てによって、児童は“We have a moon-watching party. We can eat *dango*. It's delicious.”と、発表の最後に感想を伝えるようになりました。このように学習の改善を図ることができたのは、聞く人の立場になって、相手にわかりやすくする工夫を考えたからだと思います。



▲ スライドショー機能

絵カードを話す順番に並べておく。スワイプで簡単にカードの入れ替えができ、話の内容を整理するときに役立つ。Googleスライドなどのスライド作成アプリでも同様の学習活動ができる。

3 達成感を得るためのICT活用法

最近タッチペンなどを使用し、タブレット上で書く活動を行う実践が増えてきました。私は**アナログとデジタルのそれぞれのよさを生かすことが大切だ**と考えます。

「書くこと」の目標は、「音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写す（例文を参考にして書く）ことができるようにする」です。その達成のために、書いて伝える目的を設定し、手本を見ながら書く練習をして最後に自分の思いを伝える一文を清書できるワークシートを使用しています。

手本が真上にあるので、児童は黒板に目線移すことなく、語と語のスペースや符号を意識して書くことができます。縦に並んだ複数の文を一覧し、ゴールを見据えながら書く活動ができるのは、アナログのよさです。

しかし、ワークシートには書いて伝える目的を生かすにくい側面があります。本単元では「ALTの家族に『日本のすてき』を贈る」という活動を設定していますが、ワークシートは**本物のカード**ではありません。

そこで、ワークシートを写真に撮り、書いた文を画像として貼り付け、デジタルのカードを作ることになりました。デジタルにすれば、紙を切ったり貼ったりする作業の時間が不要になり、書く時間を多く確保することができます。児童は、プレゼントにふさわしいカードを完成させるために、相手を意識して丁寧に書く活動に取り組みました。そして、完成したカードのファイルを実際にALTに贈ることで、達成感を味わうことができました。

ワークシート▶

先生の手本を見る（最上段）、手本をなぞる（第2段）、自分の考えをなぞったり書き写したりする（第3段）、自分の考えを清書する（第4段）という構成になっている。下部には自分の考えを表すイラストを貼り付けることができる。

5年生 感想ワークシート

Class()

〇〇先生の感想 It's fun.

〇〇先生の感想 It's delicious.

自分 It's

自分



おわりに

ICTを活用する意義は、言語活動の時間を増やし、言語活動の目的を本物にするなど、言語活動をより豊かにすることにあります。目の前の児童が「できた！ わかった！」と目を輝かせる姿を想像しながら、より効果的なICTの活用に挑戦したいと考えています。

単元計画（略案）

1	行事や場所などの言い方や“We have ～.”と“I have ～.”の違いを知り、北海道の有名なものを言う。
2	「北海道のすてき」について話を聞いたり、ペアで言ったりする。
3	「日本のすてき」について言う。
4	ペアで「日本のすてき」を伝え合う。
5	指導者の絵について、感想を聞いたり言ったりする。
6	日本の文化について、考えや気持ちなどを伝え合う。
7	日本の行事や名所などについて、そこでできることを伝え合う。
8	ALTの家族に「日本のすてき」をよく知ってもらうために、ペアで自分の考えや気持ちなどを含めて伝え合う。また、それらを書き写す。
9	ALTの家族に「日本のすてき」をよく知ってもらうために、自分の考えや気持ちなどを含めて紹介する。また、それらを書き写し、カードを完成させる。
10	



▲児童が作成したカード

絵カードを利用して作成。文字の部分は、ワークシートで清書した部分をトリミングして貼り付けている。



この実践の単元計画は
二次元コードから
ダウンロードできるよ！



ここが ポイント

〇 言語活動を支えるためのICT

言語の習得は、人と人が直接行うインタラクションがなければ、とても難しいと言われています。ICTの活用を考える前に、このことを認識することは大変重要です。平山先生が言われるように、あくまで教師と児童の生のやりとりが、何よりも授業の中心であるべきであるということです。平山先生の実践は、ICTをそうした言語活動を補完したり、補強したりするためのツールとして位置づけている点が注目されます。

〇 ICT：3つのメリット

その上で、ICTの効果的な活用として平山先生は、

- ① 話すことに自信を持たせるため
- ② 伝える内容を整理するため
- ③ 成果物を作る達成感を得るため

の3点について実践例を提供されています。

① について、平山先生は、ICTによって児童が音声やイラストを手がかりとして、表現を思い出したり、繰り返し練習させたりできるようにされています。しかも、児童たちが自分のニーズに合わせて、さらには自分のペースで学べることで、集団指導では難しかった、きめ細かな学びを実現させておられます。

② の発表前の準備段階は、これまでは慣れない文字を書かせて、かなりの負担をさせながら、原稿を書かせるケースも多かったと思

います。しかし、タブレット上で文や単語の順番を簡単に並べ替えることができれば、内容を考えながら同時に文を文字で書くという負担もかなり軽減できます。

③ の成果物をICTを利用して作ることは、はさみとのりで作るより格段に時間と手間が省かれます。平山先生の、手書きの文字をキャプチャーしてカードに貼りこむという工夫は、お手本を至近距離で確認しながら書けるワークシートのメリットとICTの可塑性・柔軟性をうまく組み合わせた素晴らしいアイデアです。

〇 ICTの課題を乗り越える

終わりにICTの利用についての課題も意識したいものです。① 児童のICTスキル・リテラシーをすべての児童に保障すること、② ICT利用の規律をしっかりとさせること、③ ICTを使う場面と英語を使う活動場面のけじめをつけること、④ ICTに「おまかせ」で表現させるのではなく、あくまで「自分」が表現するのだという主体性などが重要な点となってくるでしょう。

ICTを活用して、ぜひ「豊かな」外国語の授業を展開していただきたいと思います。

▶ 萬谷 隆一

北海道教育大学教授



まとめ

- ① コミュニケーションを重視し、ICTが言語活動を充実させるツールとなるようにする。
- ② 児童が自分の課題に合わせ、自分のペースで学習できるようにする。
- ③ アナログとデジタルの特徴を捉え、それぞれのよさを生かす。

先生のお道具箱 ～What's in your toolbox?～

【Vol.1】みんなで作り、みんなで使う CAN-DO リスト

神田 麻未

岩手県山田町立
豊間根小学校教諭



CAN-DO リスト形式の目標とは

学習指導要領が示す外国語の目標を達成するために、各学校において、技能または領域ごとに、言語を用いて「～することができる」という能力記述文で設定する学習到達目標のこと。

文部科学省公式 YouTube チャンネル「MEXT Channel」では「Can-Do 形式の学習到達目標作成とその活用」において、学期末のパフォーマンス評価をもとにした解説動画が公開されている。また、同コンテンツでは、この豊間根小学校の取り組みが紹介されている。

いろいろな CAN-DO リストを参考にして、自分の学校の実態に合わせて作り変えていくといいね！



はじめに

本校は、令和元・2年度の2年間、国立教育政策研究所の研究開発学校の指定を受け、「外国語で主体的に表現しようとする児童の育成」をテーマとして実践研究に取り組みました。どうすれば児童の表現したいことに寄り添うことができるだろうかと考え、たどり着いた手立ての一つが「CAN-DO リスト」でした。

2種類の CAN-DO リスト

当時はまだ文部科学省や関連機関から小学校での CAN-DO リストの活用に関する指針等が発表されておらず、何から手を付ければよいのかもわからない状況でした。そこで、まず近隣の中学校の CAN-DO リストを見せていただき、何のために作

るか、どんなことが記載されているとよいかなどについて、職員みんなで話し合いました。外国語教育の目標の実現には言語活動が大切であることから、特に単元ゴールの言語活動については「相手意識・目的意識・必然性」を重視し、教科書を見ながらアイデアを出し合いました。児童の興味・関心を意識しすぎると、ねらいや目標を見失い、言語活動がゲームやイベントのようになってしまいます。目標と活動がそれることなく、一体となった計画を立てるために、小学校卒業時にどのような力を身に付けさせたいか、そのために2学期末は、1学期末は……と「バックワードデザイン」で考えることにしました。このような試行錯誤を経て、専門家の先生から助言をいただきながら、時間をかけて開発したのが「児童と共有する CAN-DO

山田町立豊間根小学校 第6学年 年間指導計画（本校学習到達目標と各単元との関連付け）											
年間指導計画（開隆堂 Junior Sunshine 6）						学習到達目標（CAN-DO リスト形式）					
学期	学年	単元名	題材	主たる教材	教科書との関連	Let's Try (GOAL)	聞くこと	読むこと	話すこと（発表）	書くこと	教科書に記述の「CAN-DOマップ」
1学期	Lesson 1	We are friends. (2時間)	クラスの輪を広げよう。	復習		5人組の自己紹介をクラスの中でできよう。	友達や自己紹介している内容を聞き取ることができよう。(ア)		友達や新担任と物怖じしないで、あいさつをしたり、関わり合えることができる。(ア)		たくさんの友達と自分とが関わり合えることができる。
	Lesson 2	What time do you get up? (6時間)	自分の一日をしようか。	What time do you go to bed?	社	自分の一日を英語で紹介しよう。	一日の生活の時刻を聞き取ることができよう。(イ)		基本的な表現を用いて、友達に一日の生活の時刻を話すことができる。(ア)		自分の一日を発表することができる。
	Lesson 3	Where do you want to go? (6時間)	ツアープランナーになろう。	Where do you want to go? Why?	社	ツアープランナーになって、おすすめのツアープランを英語で紹介しよう。	友達や新担任の職業を聞き取ることができよう。(ウ)		友達や新担任と物怖じしないで、おすすめのツアープランを聞き取ったり、関わり合えることができる。(ウ)	国名を書き添えることができる。(ア)	おすすめのツアープランをしようか。
	Lesson 4	Welcome to Japan. (6時間)	日本のことをしようか。	Welcome to Japan. We have ~, Please ~.	社	自分たちの住む地域のことを英語で紹介しよう。	日本の有名な場所や食べ物に関する単語の意味が分かるようにする。(イ)		日本のよいところを相手に分かりやすく説明して話すことができる。(ウ)		日本のことをしようか。

▲「CAN-DO リストを含む年間指導計画」

単元末の言語活動におけるコミュニケーションの目的を、学級の実態に合わせて先生が赤字で書き加えます。

リスト」と「CAN-DOリストを含む年間指導計画」です。

「児童と共有するCAN-DOリスト」は、児童自身が2学年間の学習の見通しをもてるようにするために作りました。学習への見通しは、「前に同じようなことを学習したからできそうだ」という安心感や期待、「学習したことを使ってみよう」などの前向きな気持ちにつながります。このリストは、児童がより主体的に学習に取り組むことができるようにするためのものといえます。

「CAN-DOリストを含む年間指導計画」は、指導者がどの単元でどの領域の評価を行うのかを一目でわかるようにしたものです。これを活用することによる効果は次の3つです。

- ①評価に偏りが出ないよう、評価する領域や観点を理解したうえで単元計画を立てられる。
- ②既習表現の確認がしやすいため、意図的にそれらを取り入れた単元計画が立てられる。
- ③どの時期にどのような学習を行うか、年間の見通しをもって指導を進められる。

なお、①に関し、「記録に残す評価」を太枠で示し、毎時間の「指導に生かす評価」を確実にし、適切に評価できるようにしました。

■ 専科教員との連携

本校では本年度、週2時間の外国語科のうち、1時間は専科教員が、もう1時間は担任が指導しています。当初は目標の達成に向けた指導をふれずに行うことができると不安がありました。そこで、CAN-DOリストを介し、各単元のゴール

5年生		6年生	
聞くこと	自己紹介や誕生日について聞いて、簡単な語句を聞き取ることができる。 Lesson 1 Nice to meet you.	友達の自己紹介を聞いて、簡単な語句を聞き取ることができる。 Lesson 1 We are friends.	一日の生活の時刻、夏休みの思い出、好きなスポーツややりたい職業などの具体的な情報を聞き取ることができる。 Lesson 2 What time do you get up? Lesson 3 Where do you want to go? Lesson 4 Can you do this? Lesson 5 I want to see the Milky Way. Lesson 6 My Summer Vacation. Lesson 7 Happy New Year. Lesson 8 What sport do you like? Lesson 9 My Favorite Memory. Lesson 10 I have a dream. Lesson 11 Junior High School Life.
	Project 1 パーティーを楽しもう		
	Lesson 2 When is your birthday?		
	Lesson 3 Where is your treasure?		
	Lesson 4 Can you do this?		
	Lesson 5 I love my town.		
	Lesson 6 My Year.		
	Lesson 7 Happy New Year.		
	Lesson 8 I love my town.		
	Lesson 9 My Year.		
読むこと	アルファベットの大きな文字や小文字を認めることができる。 Lesson 1 Nice to meet you.	日本の有名な食べ物や場所を表す語句について意味が分かる。 Lesson 4 Welcome to Japan. Lesson 5 I want to see the Milky Way. Lesson 6 My Summer Vacation. Lesson 7 Happy New Year. Lesson 8 What sport do you like? Lesson 9 My Favorite Memory. Lesson 10 I have a dream. Lesson 11 Junior High School Life.	日本の有名な食べ物や場所を表す語句について意味が分かる。 Lesson 4 Welcome to Japan. Lesson 5 I want to see the Milky Way. Lesson 6 My Summer Vacation. Lesson 7 Happy New Year. Lesson 8 What sport do you like? Lesson 9 My Favorite Memory. Lesson 10 I have a dream. Lesson 11 Junior High School Life.
	Lesson 2 When is your birthday?		
	Lesson 3 Where is your treasure?		
	Lesson 4 Can you do this?		
	Lesson 5 I love my town.		
	Lesson 6 My Year.		
	Lesson 7 Happy New Year.		
	Lesson 8 I love my town.		
	Lesson 9 My Year.		
	Lesson 10 I love my town.		
話すこと	基本的な表現を使って話したりそれらに応じたりすることができる。 Lesson 1 Nice to meet you.	基本的な表現を使って話したりそれらに応じたりすることができる。 Lesson 1 We are friends.	基本的な表現を使って話したりそれらに応じたりすることができる。 Lesson 1 We are friends.
	Lesson 2 When is your birthday?		
	Lesson 3 Where is your treasure?		
	Lesson 4 Can you do this?		
	Lesson 5 I love my town.		
	Lesson 6 My Year.		
	Lesson 7 Happy New Year.		
	Lesson 8 I love my town.		
	Lesson 9 My Year.		
	Lesson 10 I love my town.		

▲「児童と共有するCAN-DOリスト」

児童が各単元末で自己評価をチェック欄に2段階で記入できるようにしています。

や評価規準を共有することにしました。作成時には想定していなかった活用法ですが、指導者間の連携の効率化にも大いに役立っています。

■ 終わりに

CAN-DOリストを活用し始めて2年が経ち、今の課題は「児童と共有するCAN-DOリストの活用」です。既習の語句や表現を活用する意欲を引き出すために辞書のような役割をもたせられるのではないかと、その手立てや工夫を考えています。

このように新たな課題を見つけ

ることができたのは、CAN-DOリストを作成したからこそだと思っています。

まずは先行事例を参考に、CAN-DOリストを作成してみる事が大切だと実感しています。活用する中で改善点が見えてきます。注意すべきは、CAN-DOリストの活用を目的化しないことです。「児童のコミュニケーション能力の基礎を養う」外国語の目標を大切に、これからもCAN-DOリストを生かし、児童の思いに寄り添った授業づくりに努めていきたいと思っています。

豊間根小学校の バックワードデザイン

卒業時の児童の姿を考える
↓
各学年末段階の児童の姿を考える
↓
各学期末の児童の姿を考える
↓
各単元末の児童の姿を考える
↓
単元ゴールの言語活動

豊間根小学校のCAN-DOリストは、
二次元コードからダウンロード
できるよ！



ICT活用で変わる小学校外国語教育(1)

外国語教育でICTを活用することにはどのようなメリットがあるのでしょうか。文部科学省視学官の直山木綿子先生に取材しました。



直山 木綿子

文部科学省
初等中等教育局視学官



GIGAスクール構想の推進によって児童生徒の一人一台端末環境の整備が進み、効果的な活用に向けた実証研究の段階に入りました。今年度はすべての小中学校に外国語の学習者用デジタル教科書が無償で配布され、学習過程にタブレット端末の活用を組み込んだ実践が増えました。

子どもたちは、手際よくアプリを起動し、画面の上で指をすべらせ、いとも簡単に画像や動画を加工したり、それらをリアルタイムで共有したりしています。そんな姿を見ると「かっこいいな。あんなふうに使えたいな」と思われます。普段デジタル機器の扱いに四苦八苦している身であっても、いや、身だからこそ、デジタルならではの効率性やスピード感にわくわくし、時間や場所などの制約を軽減できるデジタルの強みを感じています。

ある学級では、学習支援アプリのアンケート機能を使い、インタビュー活動の後に「友だちについてわかったこと」を送信。直後に集計結果のグラフが電子黒板に映し出されると、子どもたちはわっと歓声を上げ「予想が当たった」「意外だった」などと感想を交わしていました。

また、ある学級では、相手を意識したよりよいやり取りができるようになるために、子どもたち自身でやり取り

の様子を動画に撮って確かめたり、それを友だちと見せ合ったりして改善点を見つけていました。このように学習の過程で撮った動画やワークシート等の写真を蓄積し、子どもたちは自分の成長や課題を確かめる振り返りに、指導者は子どもたち一人ひとりの学習状況の把握に役立てている学級もありました。

さまざまな事例を通して、外国語教育においてICTを活用することのメリットは、次の3つにまとめることができていると考えています。

- ① 作業のために割いていた時間を節約でき、言語活動を充実させることができる。
- ② 子どもたち一人ひとりの課題が見つかりやすくなり、個別最適な学びに役立つ。
- ③ 情報の共有がしやすく、協働的な学びを実現できる。

急に進んだ一人一台端末の導入に、「ICTには苦手意識がある」「どうやって使えばよいかわからない」と戸惑いを感じられた先生は少なくなかったと思います。それが今では優れた実践が着実に積み上げられてきています。冒頭で述べたように、今年度は実証研究、試行錯誤の年です。一緒によりよい活用方法を追求していきましょう。

開隆堂YouTubeチャンネル
英語教育のコンテンツを続々アップします。

チャンネル登録をお願いします



第1弾 教えてアリソン先生!

立教大学講師の長谷川アリソン先生による「英語の発音指導法3分間動画」シリーズです(全4回)。第1回は「LとRの発音」についてです。



Cover Picture 世界のおまつり① パーゼル ファスナハト(スイス)

2017年にユネスコ無形文化遺産に登録された、3日間にわたって開催されるスイス最大のカーニバル。大小さまざまな灯籠が闇に浮かび上がる幻想的なパレードで幕を開け、メインのパレードでは、多くの人々が仮面と衣装をまとい、音楽隊と練り歩く。

小学校英語情報誌

Junior Sunshine Letter Vol.1

非売品



開隆堂出版株式会社

本社 〒113-8608 東京都文京区向丘1-13-1 ☎ 03-5684-6111

2022年12月13日印刷 2022年12月19日発行 編集兼発行人 岩塚太郎

発行所 開隆堂出版株式会社 〒113-8608 東京都文京区向丘1-13-1

☎ (03) 5684-6121 (営業)、5684-6118 (販売)、5684-6115 (編集) <https://www.kairyudo.co.jp/>

北海道支社 〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西11丁目4番地21 52山京ビル7階 ☎ 011-231-0403
東北支社 〒983-0852 宮城県仙台市宮城野区榴岡4-3-10 仙台TBビル4階 ☎ 022-742-1213
名古屋支社 〒461-0004 愛知県名古屋市中区葵1丁目15番18号 オフィスサンゴヤ9階 ☎ 052-908-5190
大阪支社 〒550-0013 大阪府大阪市西区新町2-10-16 ☎ 06-6531-5782
九州支社 〒810-0075 福岡県福岡市中央区港2-1-5 FYCビル3階 ☎ 092-733-0174